

グループ名 ・代表者名	Eシフト(脱原発・新しいエネルギー政策を実現する会) 吉田明子	助成金額	40万円
連絡先など	<a href="http://e-shift.org">http://e-shift.org</a> <a href="mailto:info@e-shift.org">info@e-shift.org</a> 03-6907-7217 (FoE Japan 内)		
助成のテーマ	原発事故被害への対応と脱原発への方向転換を目指す政策提言と社会ムーブメントづくり		

## 【調査研究の概要】

- ・パブコメ&「国民的議論」キャンペーン(2012年夏)  
ウェブサイト「パブコメで未来を変えよう」開設。様々な活動と連携して参加を呼びかける。
- ・規制委員会人事問題・ロビー活動(2012年8月)  
「市民500人で国会にいこう!」と呼びかけ、ほぼすべての議員事務所をまわるアクションを呼びかけ
- ・eシフトブックレットの刊行、セミナー・シンポジウム開催、ほか声明発表等
- ・月1回程度の定例会合とメーリングリストにて、情報共有とアクション企画

## 【調査研究の経過】

2012年5月 エネルギー政策の見直しプロセスに関し声明発表等  
 2012年4~8月 原子力規制委員会人事問題に関し声明発表等  
 2012年7~8月 「エネルギー・環境に関する国民的議論」への参加を呼びかけるキャンペーン  
 2012年8月 市民版エネルギー基本計画発表  
 2012年9月 eシフトブックレットVol.2(発送電分離)刊行  
 2012年11月 「自然エネルギー社会のための発送電分離」開催  
 2013年2月 原発ゼロノミクス・キャンペーンスタート  
 2013年3月 eシフトブックレットVol.3(東電解体)刊行



## 【今後の展望など】

- ・原発ゼロノミクス・キャンペーンの展開  
セミナー等を通じた情報発信、SNSを活用した広報活動、キャラクター「ゼロノミクマ」の活用等。
- ・ブックレットVol.4(原発ゼロノミクス)、Vol.5(避難の権利)刊行予定。

会計報告書の概要 (金額単位:円)			充当した資金の内訳		
支出費目	内 訳	支出金額	高木基金の 助成金を充当	他の助成金 等を充当	自己資金
旅費	交通費(福島)、講師交通費	65,760	50,000	15,760	-
資料費		-	-	-	3,000
機材・備品費	事業資材	3,000	-	-	-
会議費	会議室会場費、セミナー会場費	59,560	59,560	-	-
印刷費	資料印刷費、パンフレット印刷等	175,844	75,844	100,000	-
協力者謝礼など	講演謝金、執筆謝金等	156,292	86,292	70,000	-
外部委託費	編集委託、事務局運営	660,000	100,000	277,913	282,087
その他	荷造運賃、支払手数料	71,666	28,306	36,327	7,035
合 計		1,192,122	400,000	500,000	292,122

## 参考文献(ウェブサイトや書籍、成果物など)

- ・パブコメで未来を変えよう <http://publiccomment.wordpress.com>
- ・原発ゼロノミクス <http://zeronomics.wordpress.com>

# eシフト

eシフト(脱原発・新しいエネルギー政策を実現する会)

2011年3月11日の福島第一原発事故を契機に、脱原発と自然エネルギーを中心とした持続可能なエネルギー政策を実現させることを決意した、団体・個人の集まりです。

- 1 「事故被害の最小化」と「責任所在の明確化」
  - 2 「脱原発と持続可能なエネルギー政策に向けた政策提言づくり」と「その実現」
  - 3 「市民への有益な情報発信」と「社会的ムーブメントの巻き起こし」
- の3つの分野で活動を展開しています。

さまざまな団体の立場の違いを乗り越え、お互いの長所を活かしながら、本当に豊かで安心できる持続可能な社会を作るための大きなうねりとなっていくことを目指しています。固定的な組織体ではなく、緩やかなネットワークによる活動母体として機能しています。

<http://e-shift.org>

参加団体 (2013年3月現在、約60団体+個人、全体約250名)

国際環境NGO FoE Japan、環境エネルギー政策研究所(ISEP)、原子力資料情報室(CNIC)、福島老朽原発を考える会(フクロウの会)、大地を守る会、NPO法人日本針路研究所、日本環境法学家連盟(JELF)、「環境・持続社会」研究センター(JACSES)、インドネシア民主化支援ネットワーク、環境市民、特定非営利活動法人APLA、原発廃止で未来をひらこう会、気候ネットワーク、高木仁三郎市民科学基金、原子爆禁止日本国民会議(原水禁)、水源開発問題全国連絡会(水源連)、グリーン・アクション、自然エネルギー推進市民フォーラム、市民科学研究所、グリーンピース・ジャパン、ノーニュークス・アジアフォーラム・ジャパン、フリーター全労働組合、ピープルズプラン研究所、ふみみん婦人民主クラブ、No Nukes More Hearts、A SEED JAPAN、ナマケモノ倶楽部、ピースボート、WWFジャパン(公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン)、GAIAみみをすます書店、東京・生活者ネットワーク、エコロ・ジャパン・インターナショナル、メコン・ウォッチ、R水素ネットワーク、東京平和映画祭、環境文明21、地球環境と大気汚染を考える全国市民会議(CASA)、ワーカーズコープ エコテック、日本ソーラーエネルギー教育協会、THE ATOMIC CAFE、持続可能な地域交通を考える会(SLTc)、環境まちづくりNPOエコメッセ、福島原発事故緊急会議、川崎フューチャー・ネットワーク、地球の子ども新聞、東アジア環境情報発信所、Shut泊、足元から地球温暖化を考える市民ネットなどがわ、足元から地球温暖化を考える市民ネットたてばやし、東日本大震災被災者支援・千葉西部ネットワーク、東アジア環境情報発信所、アジア太平洋資料センター(PARC)、NNA(A/No Nukes Asia Actions) Japan、さよなら原発・神奈川、ブルトニウムフリーコミュニケーション神奈川、エコフェアネットワーク

## 活動手法(1)

### eシフト全体会議

- ・月1回程度都内で開催、各回20~30名程度参加
- ・緊急テーマ、重要テーマに対する意見交換、具体的なアクション立案
- ・情報交換、ネットワークづくり

### eシフトメーリングリスト

- ・250人以上参加
- ・1日5~10通程度
- ・重要テーマに関する情報交換、意見交換

### ウェブサイト、「eシフトお知らせメール」

- ・重要テーマに関する情報発信

## 活動手法(2)

### eシフト市民委員会

- ・エネルギー・原子力政策への提言
- ・市民版代替案の提案
- 「市民版エネルギー基本計画」

### メディア・アクション

- ・自治体の脱原発・自然エネルギー取り組みの促進
- ・イベント等での出展、アピールなど

重要課題ごとにワーキング・チームを結成して具体的なアクションを行なう。

### 原発ゼロノミクス

- ・原発ゼロの市民の声を再度+経済性のわかりやすい提示

### ブックレット編集チーム

- ・Vol.1 再稼働問題
- ・Vol.2 発送電分離
- ・Vol.3 東電解体

### 選挙対策チーム

- ・衆議院選挙に向けたプラットフォームづくり、情報発信

## 2012年度の重点活動

1. エネルギー政策「国民的議論」プロセスへの提言、参加呼びかけ
2. 原子力規制委員会人事問題に対する一斉ロビー活動
3. eシフトブックレット
4. 電力システム改革への働きかけ
5. 原発ゼロノミクスキャンペーン

## 「国民的議論」への働きかけ(2012年夏)

### 「国民的議論」の方法

- 1) 専用ウェブサイトによる情報発信
- 2) パブリックコメント
- 3) 意見聴取会(全国11箇所)
- 4) 討論型世論調査
- 5) 民間主催の説明会への協力

ほかにも、マスコミの世論調査などを参考にする

### 自主的意見聴取会開催の呼びかけ

- ・eシフトでも東京、福島で開催
- ・全国22箇所で開催

- パブコメ参加呼びかけ
- ・「パブコメで未来を変えよう」ウェブサイト
  - ・首相官邸前デモなどでのちらし配布
  - ・各団体からの呼びかけ

パブコメ総件数:  
約8万9000件  
うち、原発ゼロ9割、  
即時ゼロ8割



## 「パブコメで未来を変えよう」

パブコメで未来を変えよう

公開ガイドブック

パブコメくん

意見聴取会

## 福島／郡山での(自主的)意見聴取会

- 福島の実況を直視してほしい。問題は何も解決していない。
- 経済界ではなく、人々の視点から考えるべき。
- お金のことしか書いていないが、いのかの問題が忘れられている。
- 8月1日の福島での「意見聴取会」について、情報を公開すべき(7月20日時点で)。みな大変関心を持っている。
- 福島市で平日のみとは、参加できない。休日にも設定し、複数個所でやるべき。
- 福島県民はほとんど原発ゼロを望んでいる。この声をしっかり伝えてほしい。
- ゼロシナリオを求める声が圧倒的だった場合、それは反映されるのか？



## 国家戦略室への働きかけと対応

### <働きかけと変化>

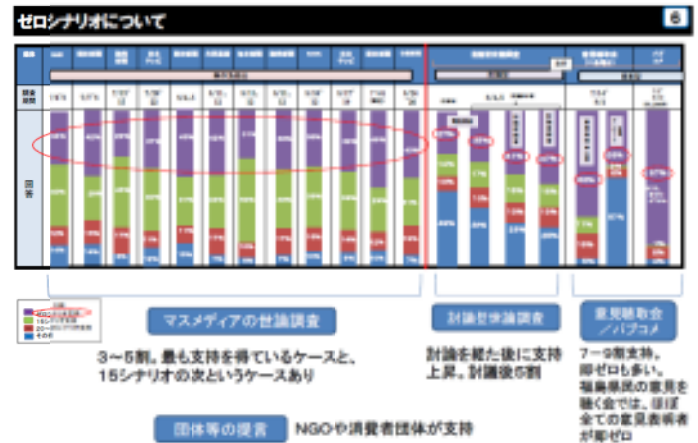
- 福島での「意見聴取会」開催
- パブコメの期間延長→7月末
- 「自主的意見聴取会」の場の設定
- 集まった全パブコメの公開
- 「国民的議論」の結果取りまとめ過程への第三者の参加、議論の公開



### <難しかったこと>

- 福島県内複数個所での「意見聴取会」開催
- エネルギー環境会議の公開

## 「国民的議論」の結果



[http://www.csis.jp/press/2012/07/20120906/0906y01\\_0.pdf](http://www.csis.jp/press/2012/07/20120906/0906y01_0.pdf)

## 過半の国民が「原発ゼロ」を望む

- 少なくとも過半の国民は原発に依存しない社会にしたいという方向性を共有している。
- パブコメやデモなど、多くの国民が直接行動を起こしている。その背景には政府への不信と原発への不安。



9月14日「革新的エネルギー・環境戦略」決定  
「2030年代に原発稼働ゼロが可能となるよう、あらゆる政策資源を投入する」

核燃料サイクル政策継続(保留)、「原子力を今後も重要な電源として位置づける」、設置許可済み原発は「新設」に当たらないなどなど、脱原発の方向と矛盾する方針や先送りばかりだが...

## 安倍政権の原発・エネルギー政策

- 選挙公約
  1. 原発の再稼働は3年以内に結論を出す。
  2. 10年以内に、電源のベストミックスを確立する。
- 政権発足後の方針
  1. 原子力規制委員会が安全と確認した原発は再稼働する。
  2. 『2030年代に原発ゼロを目指す』としていた前政権の方針はゼロベースで見直す。
- エネルギー政策見直しの枠組み
  - エネルギー基本計画見直し(2013年中)に向け、「総合資源エネルギー調査会・基本問題委員会」を廃止、常設の「総合部会」で議論批判派委員は任命されず。
  - 環境省中央環境審議会からも、脱原発派3名が内定取り消し。
- 具体的議論

???

## エネルギー政策見直しプロセスに対する要請

eシフトとして下記要請していく。

### ●透明・中立の議論の場の設定を

- ・委員選定段階で原発批判派委員がはずされている。基準、プロセスを明確・透明化すること。
- ・議論の経緯や資料の公開、インターネット中継など。

### ●「国民的議論」で示された意見の反映を

- ・2012年の「国民的議論」の結果で「脱原発」の民意が示されたことは、政権交代に関わらず、無視されてはならない。
- ・基本問題委員会宛に寄せられた意見も、考慮・反映すべき。

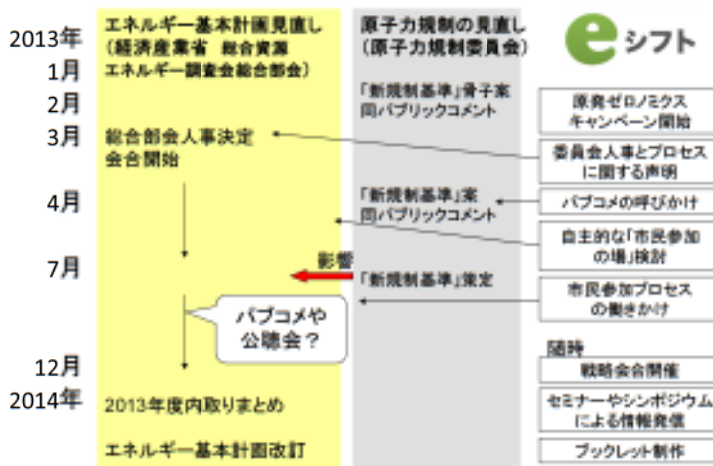
### ●市民参加プロセスの確保を

- ・市民意見を聴取する場を公式に設定すべき。ヒアリング、公聴会、パブリックコメントなど。
- ・市民意見を反映する機会を確保すべき。
- ・原子力・エネルギー政策に関しては、原発事故被災者意見を聴取する場も設けるべき。

- ・参議院選挙にむけ、「脱原発」の国民の声をあらためて可視化するキャンペーン。
- ・脱原発は経済的にも唯一の手段であることをわかりやすく示す。



## 今後の動き



## ゼロノミクマくん



## eシフトブックレット



## 今後に向けて

1. 「事実」をわかりやすく伝えること  
原発ゼロノミクス・シンポジウム、セミナー  
eシフトブックレット
2. より広い層を巻き込むための様々な工夫、  
アクション  
ゼロノミクマ  
選挙アクション

